

今泉潤太郎様

やっと記録的な猛暑も去り、初秋の候となりました。今年の暑さは老人には特別にこたえました。最後の学徒出陣として18歳で初年兵として招集され“真夏にストーブをたく”という暑さで有名な南京で泥水をすすりながら過した日々を思い出す毎日でした。しかし“大汗淋漓”の中で今泉さんが書院基金の受賞者に決定したとの報に接した時には暑さも忘れる喜びを覚えました。9月29日に授賞式があるとのこと、中島寛司君より小生も是非出席してほしいとの要望がありましたが、あいにく当日は通院日に当たりますので、やむなく欠礼し、直接お祝いの言葉を差し上げることができないのが残念です。この手紙を以てお祝いの言葉に代えさせていただきますので何卒ご了承下さるようお願い申し上げます。

さて「COEプログラム」「特色ある大学教育支援プログラム」の指定は愛大の多年の地道な努力が結実し、誇るべき業績であります。しかし正直に言ってこれが愛大の名を高める永久の手段として利用できるか、ということになりますと、必ずしも“そうだ”とは言い切れないでしょう。毎年毎年、新しいプロジェクトが文部省から指定されるからです。その点中日大辞典は“中日大辞典を発行した愛知大学”として日本でも中国でも知られています。どうか今後とも末永く中日大辞典の改訂版を発行し“中日大辞典の愛知大学”という言葉が国内外で語り継がれることを願っています。日本で唯一世界の辞典を発行することをいつまでも続けてほしいのです。これに対しては資金面、人員面から反対の声が出てくるかもしれませんが、今後生存競争がはげしくなっていく中において“中日大辞典を作った愛知大学”という言葉こそ、最も大切に守るべき財産であると信じています。

創立当初のことに触れましょう。昭和22年正月過ぎ予科の授業が始まるのに先立って書院出身者に本間先生と小岩井先生からお手紙があり、早目に学校に集まるよう呼び出しがありました。大学に来てびっくりしました。教室には机も椅子もないのです。私たちは吉田公園にあった旧陸軍の倉庫から机や椅子を大八車にのせて、北風に吹かれながら、授業開始に間に合うよう毎日何回も大学に運んだのです。腹を空かせながら小池の坂を大八車で運ぶのは大変な作業でした。これは予科生として愛大に入った書院生だけが知っている話であり、4月に学部生として入学した方々は知らない話です。

さて3月初め短い予科の3学期が終了しました。何と予科1, 2, 3年生の20%~30%が落第したのです。成績発表の夜、本間先生と小岩井先生のお二人がお揃いで一部屋一部屋寮の部屋を深夜まで回られ、“愛大は全国のトップ大学であらねばならない。だから敢えて非情な措置をとり、語学の不合格者は全員留年してもらうことにした。一流大学建設のため諸君どうか頑張ってください”と落第生を激励されました。こうした経験があるだけに、私たち愛大の予科に入学した書院生は、愛大が中部の地方大学である現状に悲憤を覚えているのです。それだからこそ、中日大辞典をバネに愛大が全国区の大学になり、昔の書院同様、全国から英才が集ることを願っているのです。

今泉さんの話の中に“辞書の仕事をやると盲目になるか早死にする”とありましたが、私も視力がにぶり眼鏡を替えるための眼鏡屋に“いくら補正しても眼自体が衰えているので0.4以上にはならない”といわれ、“我老了”を痛感しました。しかし弱い視力を奮い立たせながらこれからもカード作りに精を出すべく頑張る覚悟です。今後ともよろしくご指導下さるようお願い申し上げます。まだまだ長生きするつもりですが、万が一ということもあります。その節は次の3カ所に新しい辞典の送付をお願いします。

① 辽宁省沈阳市和平街 中国医科大学日语组 全体老师

② 南京市北京东路30号 南京外国语学校日语组 全体老师

③ 〒247-0033 横浜市栄区桂台南1丁目11番12号 福原昭二 tel (045)892-4668

以上何かとお気にさわることを書いたかとは思いますが、年寄の冷水としてご寛恕頂ければ幸甚です。御健勝をお祈り申し上げます。

2004年9月

松山昭治

---

[注] 松山昭治氏の書信。松山氏は東亜同文書院大学45期入学、愛知大学旧制法経学部を卒業後、中部日本放送(株)記者、同論説委員長。定年後は中国医科大学を始め上海交通大学などで日本語、日本事情の講師を勤めた。著書に竹内書店新社『パンダの遺言状』など。